

科目名	ドイツ文化概論（歴史）Ⅱ						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	小田 直史						

授業概要／Course outline

この授業では、「ドイツ」という国家の成立について、古代ローマ期から現代に至る変遷を講義する。秋学期は、「ウィーン体制」崩壊以降のドイツ統一から2つの世界大戦を経た現代のドイツが抱える諸問題について講義する。現在のドイツが誕生する歴史的、文化的背景を知ること、近代以降のドイツの歴史と文化について、とりわけ、第一次世界大戦後の狂気の歴史が如何にして生み出されることになったのか、更には、その反省から現在のドイツがどのような政治的実践を遂行することになったのか、その根幹を理解することを目的とする。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート）

歴史の時々で語られる理念について、それらの出来事を生み出すきっかけとなった作品にあたり、その意義についてディスカッションを行う。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

オンデマンド形式で、当該授業回の内容を講義する。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回講義 ガイダンス、前期授業内容の復習

授業のガイダンスと併せて、前期の授業内容、とりわけ、三十年戦争以降のヨーロッパ各国の政治体制（ウィーン体制）について復習を兼ねた講義を行う。

第2回講義 1848年革命と統一への機運

フランス「二月革命」に触発されウィーンとベルリンで起こった革命（三月革命）は、自由主義思想の高まりと相まって「ウィーン体制」を崩壊させる。メッテルニヒの失脚によりオーストリアはその支配権を失い、プロイセンでは大規模な衝突が生じた。ドイツ近代の礎ともなる革命の経緯について講義する。

第3回講義 ビスマルクの「鉄血政策」

1861年にプロイセン首相に任命されたビスマルクは、オーストリアとの戦争（普墺戦争）を経て領邦国家に分裂していたドイツを統一へと導く。彼が1862年に行った演説（鉄血演説）のうちに語った統一ドイツの理念について講義する。

第4回講義 普仏戦争とドイツ帝国の成立

1870年の「エムス電報事件」に端を発した普仏戦争が、プロイセンを中心とする帝国の復活、すなわち統一された新生ドイツを実現させる歴史を講義する。

第5回講義 ドイツ第二帝政とビスマルクの政治

ビスマルク時代ビスマルク体制下の政治について講義する。所謂「上からの革命」を推進するビスマルクの外交と国内政治について、軍国主義化と社会主義者鎮圧法に端を発する「ミリュール」という文化環境について解説する。併せて、「教員-学生間の対話」として、これまでの授業についての意見を聞き、授業の理解度についての確認を行う。

第6回講義 ドイツの近代化と植民地政策

ヴィルヘルム1世逝去後に即位したヴィルヘルム2世は、ビスマルクの保守的な姿勢に嫌悪感を抱き、新しい帝国の姿を模索する。ヨーロッパ列強の後塵を拝したドイツが、ヴィルヘルム2世のもと「世界政策」を展開する歴史について講義する。

第7回講義 第一次世界大戦とジャーナリズム

「世紀転換期」における「新しさ」への志向性が、帝国の領土拡大の目論見にどのように迎合していったのか。とりわけ、新聞を通じたプロパガンダ政策を通じて繰り返される戦争への礼賛とこの政策に加担した文学者の功罪について、カール・クラウスによる批判に基づき検討する。

第8回講義 ヴァイマル共和国と大衆文化

第一次世界大戦敗戦後のドイツ共和国、即ち「ヴァイマル共和国」の成立とその文化について講義する。荒廃した社会を立て直すため社会主義を唱える一団（スパルタクス・ブント）が形成されるが、ヴェルサイユ条約に異を唱える一派も台頭し（カッパース）混乱が極まる。後のナチズムを生み出す機運がどのように育まれるのか講義する。

★ オンデマンド ナチズムの台頭と第二次世界大戦

ナチスによる「第三帝国」設立の理念とその政策について講義する。「映像の世紀 ゲッベルス 狂気と扇動者」を参考に、帝国が掲げるイデオロギーとその普及のためのメディア戦略について解説する。オンデマンド授業は90分の動画を11月6日までにmoodleで配信する。

第9回講義 ナチズムの終焉と終戦（1）

ナチスによる「第三帝国」の夢とは一体何だったのか？オリヴァー・ヒルシュピーゲルの『ヒトラー～最後の十二日間～』を鑑賞し考える。

第10回講義 ナチズムの終焉と終戦（2）

前回に引き続き、ナチスによる「第三帝国」の夢とは一体何だったのか？オリヴァー・ヒルシュピーゲルの『ヒトラー～最後の十二日間～』を鑑賞し考える。

第11回講義 東西ドイツと冷戦、そして統一へ

戦後東西に分割されたドイツでは、「マーシャル・プラン」に沿った復興が行われることになるが、貨幣発行（ドイツ・マルク）に関連した東西占領国の衝突が表面化し、61年の「ベルリンの壁」建設へと突き進む。その後、ロシアの「ペレストロイカ」により冷戦は終結し、再びドイツが統一された歴史を講義する。

第12回講義 「エコロジー」と政治

60年代の世界的な左翼主義（学生運動）を起源とする左派政党「緑の党」が80年代西ドイツに誕生する。彼らの「環境思想（エコロジー）」は、その後ドイツ政界での一定の影響力を獲得し、近年の脱原発、カーボンニュートラルの理念と相まってヨーロッパ諸国に強い影響力を及ぼしている。この運動の理念と活動の軌跡について講義する。

第13回講義 ドイツにおける移民・難民問題

ドイツにおける移民、とりわけ第2次大戦後の「Gastarbeiter」の歴史と2000年代初頭からの難民流入によりドイツ社会が混乱を極める現在の社会状況について講義する。

第14回講義 まとめと最終試験

秋学期のまとめと最終試験を行う。併せて、これまでの授業内容に関する「学習成果実感調査」を行う。

事前・事後学修／Preparation and assignments

※各授業に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。

第1回講義 ガイダンス、前期授業内容の復習

【事前学習】シラバスを読んでおくこと。併せて、前期の授業内容の振り返りをしておくこと。

【事後学習】三十年戦争の歴史について、ヨーロッパの政治体制がどのように変化したかまとめておくこと。

第2回講義 1848年革命と統一への機運

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 3～S. 25）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第3回講義 ビスマルクの「鉄血政策」

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 25～S. 29）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第4回講義 普仏戦争とドイツ帝国の成立

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 29～S. 31）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第5回講義 ドイツ第二帝政とビスマルクの政治

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 31～S. 46）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第6回講義 ドイツの近代化と植民地政策

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 47～S. 85）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第7回講義 第一次世界大戦とジャーナリズム

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 86～S. 97）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第8回講義 ヴァイマル共和国と大衆文化

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 97～S. 117）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

【オンデマンド】 ナチズムの台頭と第二次世界大戦

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 117～S. 148）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第9回講義 ナチズムの終焉と終戦（1）

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 117～S. 139）を再度読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第10回講義 ナチズムの終焉と終戦（2）

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 139～S. 148）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントをレポートにまとめる。

第11回講義 東西ドイツと冷戦、そして統一へ

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 149～S. 225）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第12回講義 「エコロジー」と政治

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 205～S. 215）を再度読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第13回講義 ドイツにおける移民・難民問題

【事前学習】シラバスの確認をし、教科書の当該箇所（S. 225～S. 237）を読んでおくこと。

【事後学習】授業内容を踏まえ、この時代のポイントとなる内容をまとめておくこと。

第14回講義 まとめと最終試験

【事前学習】これまでの授業内容を振り返り、最終試験に向けた準備をしておくこと。

【事後学習】前期の授業内容を再度振り返っておくこと。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・ 「ドイツ」という国の歴史を理解する
- ・ それぞれの時代で政治と宗教がどう結びついていたのかを理解する
- ・ 「ドイツ」の歴史に刻まれた国民性（ナショナリズム）を理解する
- ・ ヨーロッパ世界におけるドイツの位置づけについて、各時代ごとに理解する

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・ 思考力
- ・ 専門知識・専門技能
- 【外国語学部 ヨーロッパ言語学科】
- ・ 異文化理解
- ・ 世界情勢と学習言語圏の理解

履修上の注意／Special notes, cautions

教科書を指定しています。各授業回は教科書の内容に準拠しながら行いますので、必ず教科書を購入し、指定された範囲を毎回の授業が始まる前に読んでおいてください。

評価方法／Evaluation

レポート40点、最終試験60点

教 材／Text and materials

【教科書】木村靖二編『ドイツ史 下』（山川出版社、2022）

以下は参考図書

木村靖二・千葉敏之・西山暁義編『ドイツ史研究入門』（山川出版社、2014）

飯田洋介『ビスマルク ドイツ帝国を築いた政治外交術』（中央公論新社、2015）

竹中亨『ヴェルヘルム2世 ドイツ帝国と命運を共にした「国民皇帝」』（中央公論新社、2018）

ハンナ・アーレント、大久保和郎訳『全体主義の起源』1、2、3巻（みすず書房、2017）

フェーリクス・メラー、瀬川裕司・水野光二・渡辺徳美・山下眞緒訳『映画大臣：ゲッベルスとナチ時代の映画』（白水社、2009）

小野一『緑の党 運動・思想・政党の歴史』（講談社、2014）

クラウス・J・バーデ編、増谷英樹・穂山洋子・東風谷太一監訳『移民のヨーロッパ史 ドイツ・オーストリア・スイス』（東京外国語大学出版会、2021）

近藤潤三『ドイツ移民問題の現代史 移民国への道程』（木鐸社、2013）

松原好次・内藤裕子『難民支援』（春風社、2018）

質問や相談の方法／Instructor contact

授業開始前か終了後の時間に対応する